

SSKR まうんてんえこー

No.320

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

10月からの新制度
「就労選択支援 特集！」

本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
http://nerimayabiko-hukushikai.jp/

山彦作業所 (就労継続支援B型)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035
Email: ymbk@nerimayabiko.com

山彦相談支援事業所 (相談支援)

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9
TEL&FAX(03)3970-2365
Email: ymbksoudan@nerimayabiko.com

やまびこ第二作業所 (就労継続支援B型)

〒179-0081 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL(03)6904-3411 FAX(03)6904-3413
Email: ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

やまびこ第二相談支援事業所 (相談支援)

〒179-0081 東京都練馬区田柄1-4-30
TEL&FAX(03)6906-9803
Email: ymbk2-soudan@xvd.biglobe.ne.jp

ワークショップ石神井 (就労継続支援B型)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812
Email: yamabiko@shakujii-work.jp

チャレンジワークやまびこ (就労移行支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865
Email: challenge@shakujii-work.jp

ワークショップ石神井相談支援事業所 (相談支援)

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650
Email: soudan@shakujii-work.jp

やまびこ三原荘 (共同生活援助)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320
Email: miharaso@mue.biglobe.ne.jp

もくじ

表紙 新年の挨拶

P2 特集「就労選択支援」

P3 特集「就労選択支援」

P4 山彦・第二 近況

P5 ワーク・チャレンジ 近況

P6 三原荘・相談支援 近況

P7 署名のお願い文

P8 相談支援事業所より

P9 やまびこのペン

P10 やまびこのかせ

新年のご挨拶

理事長 坂元 信幸

昨年、2024年は波乱の幕開けとなりました。正月いきなりの能登半島大地震、翌日には羽田での航空機事故、三日目も何か起こりはしないかと根拠のない不安を感じたものでした。さらに9月には能登半島の大震災が起こり、文字どおり復旧に水を差す事態となつてしまいました。

2025年1月7日時点で豪雨の被災者と合わせて輪島市などで約230人が避難所に身を寄せているそうです。1年たつて未だに避難所が存在する事態は大問題だと思います。また死亡者504人中、いわゆる災害関連死は276人となり、犠牲者数はさらに増える見込みとのことです(毎日新聞より)。未だに断水も続くなど、復旧に向けた動きがあまりにも遅く、人災としての側面が大きくなつていきます。政治の貧困、あるいは弱者への関心の低さが顕著と言わざるを得ません。

障害者関連分野では昨年、旧優生保護法は憲法違反であるとの最高裁での歴史的な判決が出されました。それをもとに原告への謝罪、基本合意書の締結、補償法の成立等がはかられてきました。1948年の法制定から76年、ようやく勝ち取った判決ではありませんが、この間障害者福祉に関わってきたものとしては、積極的にこの問題に取り組んできたかと言われると忸怩たるものもあり、関係者として反省すべき点も大きいと思います。今後二度とこういふ問題を起こさないということが必要とせず人権への意識を高めていくことが必要

と感じています。

昨年4月の報酬改定は成果主義がさらに進み、就労継続支援B型では平均工賃1万5千円未満の基本報酬がすべて減額されました。職員配置6対1の新たな配置基準が設けられました。職員不足が深刻な問題になっていく中で、その解決をどうするかが緊急な課題であるにもかかわらず、ちぐはぐな感否めません。報酬改定で深刻な問題になりつつあるのが生活介護事業です。日額制から時間単位の報酬体系に近くなり、現場では様々な問題を引き起こしています。将来B型事業にも影響をしないかとの不安は拭えません。

法人運営についても楽観を許さない状況が続いています。法人全体では収益はそれほど大きな問題はないものの、個々の事業については収益の改善を図るべき部署もあり、今年大きな課題になっています。

2025年の当面する課題としては、中長期事業計画の策定をまとめる必要があることと、相談支援事業のあり方を方向付けることがあげられます。相談支援事業については3事業所のつながりの強化や統合への道筋をつけることが課題となっています。相談支援事業は経営的には厳しいものもありますが、地域課題を新たに掘り起こす上では欠かせない機能もあり、その活用を検討していきたいと考えています。

今年も引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



注目

特集

就労系支援の新制度

あなたに合った働き方 一緒に考えよう

就労選択支援

10月からスタート

働き方への支援

障害福祉支援に位置づけられる新制度「就労選択支援」についてお伝えします。その名の通り、働き方を選択することを支えます。就労を希望する方にとっては明るいニュースで多くの方が支援対象となります。

現段階では制度の概要のみが示されていますが就労希望の方に加えて就労系支援の事業所にも影響が及ぶ可能性があります。膨大な情報ですので簡略してお伝えしています。

対象者は就労希望する方と現在、就労系支援を利用中の方です。特別支援学校の生徒も進路検討において触れることが想定されます。

設立の背景

現在の就労系支援は「就労移行、A型B型、定着支援」です。それが必ずしも適切な就労支援かという課題がありました。また一般就労の可能性が向上しても、就労系支援の利用を継続しているという現状の指摘も出ていました。そのため就労に向けた専門的かつ効果的な支援の仕組みが今回新設されることになったのです。

制度の概要

目的

希望や働き方について本人が適切な選択や、能力・適性・地域の状況に合った選択ができるようにする

具体的には

従来の就労アセスメントを強化することで、就労へのポイントがより整理された状態で本人に届き、働き方の自己選択ができるようになる

働き方を考えやすくするサポート

対象者

・新たに就労系支援を利用希望の方
・現在、就労系支援を利用中の方

※現在、A型B型利用中の方は支給決定更新の際、希望に応じて利用可能

※特別支援学校の生徒は在学中に複数回の利用可能（各学年ごとになど）

区内ではどこが実施？

現在のところ動きはありません。情報を待ちます。実施主体は就労実績や専門性の要件が求められます。

就労選択支援のイメージ

就労を選択するためのポイント整理



新制度の展開と 地域への影響

これまで「就労アセスメント」は主にB型事業所の利用手続きとして知られがちでしたが、実際には、利用者一人ひとりの職業的な成長を支援するために用いるものです。アセスメントを通じて、利用者の強みや配慮すべき点を把握し、それを本人やご家族と共有することで、働き方についての選択肢を広げる重要なプロセスとなります。

当事業所でもアセスメント結果を伝える際に「こんな一面があったのか」という本人・家族の反応があり、強みや環境を再認識することで利用者の自信が生まれ、働き方を探るきっかけとなること、が実際に出ています。

新たな「就労選択支援」制度は、従来のアセスメントの強化が図られます。また「就労を希望される方」や「就労支援を利用中の方」など、対象が拡大されたことは大きな進歩です。これにより、**就労を希望される区内および法定人内でも多くの方々が支援を受けることができるようになります。**同時にこの変化が地域に与える影響についても注目しています。特に地方では、社会資源が限られているため、今回の新制度がもたらす影響が大きいと考えられます。働き方を選ぶ自由度が高まる

一方で、地方には選べる職場や就労の場が十分に整備されていない現実があります。そのため選択肢が増えたとしても、結局は福祉就労に頼らざるを得ないという地域性の問題は残ると思われれます。

都市圏では従来の就労アセスメントが既に一定の機能を果たしており、地方ほどの大きな変化は見込めないかもしれません。【東京都内や練馬区では、地域ごとの就労支援制度（就労移行支援や障害者就業支援センターなど）】

全国的に実施主体や今後この制度が地域にどう影響を与えるのか注視しております。

さらに、この新制度が適切に機能すると、将来的には福祉就労から一般就労への流れが加速し、就労系事業所から一般就労を目指す利用者が増えることが予想されます。しかし、その結果として事業所から働き手が減少し、工賃額への影響で事業所では運営が困難になる可能性もあります。現在の報酬体系が工賃成果を中心に構築しているためです。これもまた地方での影響を懸念すべきポイントです。都市圏でもその影響が完全に無視できるわけではないと思われれます。

夏季に「福祉事業所の相次ぐ閉鎖で利用者の大量解雇」がニュースでクローズアップされました。働き方を巡る制度に翻弄され、結果として就労系支援を現在利用

されている方が不憫な思いをしないうよう、制度の進み方を注視しています。

制度への共感と 現実的な対応の狭間に

前頁で述べたように、この制度が目指す自己決定への支えは大変喜ばしく大いに共感できます。しかしその実効性のあるアセスメントが現実的に機能していくかは、これからのことです。制度の主旨や枠組みの現実的な対応には高い専門性と丁寧な取組が求められます。また就労に関しての意見や地域の社会資源に関しての他機関連携会議の開催など、計画相談支援事業所との連携も非常に重要な点となります。

当事業所は現段階で実施主体の要件（専門性、実績）を満たす可能性があります。地域の声に応えるため今後出る制度の詳細と現実性をみていくことでしよう。

この練馬区でも特別支援学校を含み、就労希望の声は広がっています。

未来あるこの制度への共感を持ち、どう機能していくか、枠組みが形骸化せぬようその動向を追っていきます。利用される方にとってよいものとなるように制度を地域で育てていくことが大事です。



最後に

就労への社会の関心は高まり、就労支援への期待もますます大きくなっています。制度の検討会では働く力のある方が福祉就労に滞留しているという意見や財政審議会からは福祉費用の抑制が不可欠と方針が出され、就労促進の施策を後押しする世論が沸き起こっている背景があります。しかし費用だから抑制を目指す、この見方が福祉にとって本当に前向きな状況なのでしようか、どこか整理しきれない想いがあります。

福祉事業所には作業を通じた社会参加の在り方、自己実現や「働きかた」としての地域で大切な役割があると思います。友人や他者との大切な交流、生きがい・やりがい、障害や病気があっても受け入れられてきたその大切な場所がますます無くなるのではと、今回の新制度で特にB型への影響が懸念されるのです。

新制度が適切に機能することを期待していますが、制度の進行による影響や課題にも目を向けながら、利用者にとってはどのようなかの視点も引き続き注視していく必要があります。

今回の特集では新制度の概要をお伝えしました。国からの発表や区内での動きなど新たな情報を継続してお伝えする予定です。

（チャレンジワークやまびこ 伊東）

山彦作業所近況

5年ぶりのバスレク inムーミンバレーパーク

12月3日(火)に5年ぶりに開催したバスレクに行ってきました。私は入職した年にコロナで中止になり初めての参加でした。目的地はコロナ前に計画していたムーミンバレーパークへ行ってきました。参加者は職員も入れて47名でした。当日はお天気にも恵まれ、時期もあり紅葉がとても綺麗で最高のバスレク日和となりました。



ムーミンバレーパークではグループ毎に分かれてまわりムーミンのショーを見たり、昼食を食べたり、お土産を見たりしました。久しぶりのバスレクでみんなバスの中から大興奮。ついた瞬間目がキラキラした様子で集合写真ではみんな笑顔でした。帰りはみんな歩き疲れた様子でバスの中ではぐったり。次はどこ行きたい？などの話がたりと、とても楽しい1日になりました。

(村上)

やまびこ第二近況

昨年末から「自己表現スペース」をもうけました。このスペースは各々が好きに使えるスペースです。一例を言えば、自分で作ったり描いたりした作品を展示したり、おススメのお店情報、または演劇の紹介等々と、かなり自由度の高くなるので、多くの展示が出来るかと考えています。大きなポイントとしては折り紙作品が幾つか展示されています。「誰が折ったの？」「すごいねえ」等々と周りの感想を聞くことも出来ます。こまかなルールはあまりないのですが、自由度が高くないので、相手を傷つけるような主張や政治・宗教、お金の絡むものは基本的には載せられません。スペースとしては大変満足です。

自己表現というのと、とても硬い印象だと思えますが、「表現すること」はとても大切なことだと日々感じています。かえって言葉以外の表現の方が重要なものかも知れませんが、作品を見てもらうこと、感想を聞くこと等々。作品にその方の思いが入っています。普段、あまりお話をしない方も、語りかけてくるとよくのことです。

感じます。今、展示されている折り紙で言うと、その作品を見れば、周りの人を喜ばそう、楽しんでもらおう等の思いが伝わります。今、展示スペースがどう展開し、成長していくのか、とても楽しみです。

(第二 池田)



ワークショップ石神井 近況

2025年バスレク復活

奇跡の9連休を控えた2024年12月28日、ワークショップ石神井では、毎年恒例となっている仕事納めビンゴ大会を行いました。

2024年も、大規模なイベントが実施できませんでしたが、所内でささやかなお楽しみレクとして、ビンゴ大会をみんなで楽しむことができました。

「できたようです」と他人事のように書いてしまったのは、この記事を書いている施設長の私が年末に体調を崩してしまい、みんながビンゴ大会で楽しむ姿を見ることができなかつたからです。

しかし、年明けの仕事はじめにみんなの顔を見たときに、年末のビンゴも9連休も良かったで過ごしてもらえたのだと感じることができました。メンバーのみんなにもワークショップ石神井の全スタッフにも感謝の気持ちから始まった2025年です。

年は変わって2025年。ワークショップ石神井では約5年ぶりに日帰りバスレクを復活します。次号以降でバスレクのご報告をできればと思いますので楽しみに。

(大越)



「どこにする？」



バスレク行先投票

チャレンジワーク 近況

練馬区の障害者就労支援センターであるレインボーワーク主催の模擬面接会に参加をしました。(チャレンジワークから2名が参加されました)

これは実際の練馬区内外の企業の採用担当の方が面接官役として参加され、本番さながらの面接を体験できるというものです。また、企業の障害者雇用の採用担当者から面接時のポイントについても講習会が行われ、就職活動で大切な面接にスポットを当てた催しになっています。

当日は実際の企業面接を想定して、スーツを着用し、身だしなみを整えて模擬面接会に臨みました。メンバーの皆さんはこの日の事前準備として、面接会場への入退室の所作から面接官に聞かれる質問を想定した回答集を活用して、事業所でも面接練習を重ね、自分の長所や短所、求める配慮事項など自己理解についてのプログラムにも取り組みました。

模擬面接の本番では自己紹

介から始まり、志望動機や障害のこと、自分の強みや配慮事項、事業所で行っているプログラムのことなど、緊張感がある中でやり取りが行われました。面接を終えたメンバーは「緊張したけど練習を思い出して相手に伝えられた」「緊張して上手く言葉が思い付かず、苦労しました」などの感想がありました。

模擬面接会の後日、面接の内容について面接官役の企業担当者からフィードバックをもらい、客観的に自分を振り返ることや今後の就職活動に向けて実践的な経験を積むことが出来ました。

(チャレンジワーク 高橋)

模擬面接会



やまびこ三原荘 近況

やまびこ三原荘では、昨年の12月にレクを行いました。コロナ禍では、三原荘の交流室で食事会を行ってきましたが、外でのレクを行ったのがなんと5年ぶりで、ようやく外出でのレクを行うことができました。

今回のレクは、2グループに分かれて、12月13日にカラオケ班、12月23日に映画班に分かれてレクを行いました。カラオケ班では、入居者3名と、職員1名が参加しました。大泉学園の「カラオケBan Ban」に行き、一人4曲を自分の持ち歌を熱唱。それぞれが、自分の世代の歌を歌って、普段グループホームでは見れないみんなの活き活きとした表情をみることができました。昼食もカラオケ内でとり、味噌ラーメンや焼きそばを食べべて楽しむことができました。

映画班では、入居者4名と、職員2名が参加しました。観たい映画を事前に2つに絞り、どちらを観たいのかを入居者に選んでもらいました。一つが「ライオンキングムファサ」、もう一つが「はたらく細胞」です。

三原荘から大泉学園のオズのTジョイ

まで、徒歩組と車組とで分かれて現地に集合し、映画も二手に分かれて鑑賞しました。鑑賞後にみんなに感想を聞くと、「ライオンキング」は、たくさん動物が出てきて、誰が誰だかわからなかったとの話や、「働く細胞」は、白血球や赤血球の役割が勉強になったなど一人一人が様々な感じ方をしたようです。昼食はオズのレストランネスで食べ、からあげ定食やねぎとろ丼などそれぞれが食べたい物を注文してお腹いっぱい大満足のレクとなりました。

今回、残念ながら参加できなかった入居者もいたため、次回は、たくさん入居者が参加できるレクを考えていきたいと思えます。
(三原荘 青柳)



相談支援事業所より

「親の目が黒いうちは」…と、よく聞きます。これは親が最後まで

で子供の面倒を見ると同じ言葉なのでしよう。これまでの歴史をみると「親任せ」「家族任せ」の制度設計だったので、このような言葉が出るのも、ある意味仕方なかったのかも知れません。日々、高齢になった親御さんが、また高齢になっていく子供の介助をしている場面が多く見られます。周りの支援者はヘルパーさんの利用や、ショートステイの利用を勧め、少しずつ親御さんの負担を減らせるように、または家族以外の人の支援に慣れていけるようにと働きかけているのですが、実際はスムーズに行きません。他の支援を組み合わせた方が、今の生活自体を長引かせ易いのですが、そこは理屈通りには行きません。ご家族、親にも、人に任せただけによる辛い思い出やトラウマがあることも少なくないですし、そもそも将来の離れる準備をすることに抵抗もあります。

力強く「目が黒いうちは」と言っていた親御さん、その親御さん自身が介護が必要になることが多くあります。もしくは、お子さんが

支えになっただけで「ただいまあ」の元気な声が聞きたくて、離れられなくなってしまう、親が子に支えてもらう場面が増えている方も多くいます。

しかし最後に、辛い思いをするのは、多くはお子さん、すなわち私の担当している利用者です。いきなり今の生活がストップしてしまう。違う場所での生活、見たことのない人との活動、等々と戸惑うことになりやすい。家から離れて生活している習慣があるかないかでは全然違います。出来たら、多くのサービスや支援者に慣れて、触れていた方が良いのですが、強引には勧められません。(実際は何とかなっています)

私は長年、義理の両親の介護を続けています。ただ、私に障害があつたら・障害があると親の介護にも制限・限界があります。障害がない親子に比べると、圧倒的に親が動けなくなると、その時点で家族がバラバラになってしまうことが多いでしょう。「親の介護がしたくても出来ない」これは、障害がある上での不利益だと感じています。

「私の目が黒いうちは」。今日もこの言葉を聞きました。

(第一相談 池田)

きょうされん第48次国会請願署名・募金運動 ご協力お願いします

今年も署名活動のご協力をお願いする時期がやってきました。国会請願は、私たちの現状や願いにもとづいた法律の改正や、新しい法律を作ってほしいと、国会に願い出ることです。

2018年から始まった優生保護法の違憲裁判では、全国から39人の原告が立ち上がったたり、また今までの署名運動の積み重ねもあり2024年7月3日に裁判官全員一致で憲法違反であると判断されました。国は謝罪と補償法を成立しました。すべての被害者に補償が届き、障害による差別や偏見を根絶するために国が責任を持って取り組む事が求められます。

また障害者の生活実態として生活に苦しく、病院に行く回数を減らしたり、食事を抜いたり障害年金だけでは到底生活することが出来ず、生活保護に頼らざるを得ない方が多くいらっしゃいます。障害年金を増額し障害のある人が障害のない人と同じように生活できるように強く要望します。障害者権利条約にもとづき、障害のある人の人権が守られ、安心した生活が送れるようぜひ、皆様のご協力をお願い致します。

添付の署名用紙にご記入の上、事業所まで郵送してください。署名のご記入の際は、「//」や「々」等は使わず、すべてお書き下さるようお願い致します。



障害者権利条約を地域のすみずみに
障害のある人たちを支える
制度づくりのための
署名・募金にご協力ください



落合 恵子



福葉 剛



竹下 景子

わたしたちも応援しています

▲てらしひろと（鳥取県・いちごの広場）

●とりくみ法人・事業所様

社会福祉法人練馬山彦福祉会

■キャンペーン推進本部
きょうされん事務局 〒164-0011 東京都練馬区中栄5-11-18 東京福祉協議会4F
TEL: 03-5365-2233 FAX: 03-5365-2259 E-mail: zenkoku@kyosaren.or.jp

相談の場から

▼他自治体との関わり

計画相談の業務は、多くの人に会えます。そして同じく多くの自治体と関わりが持てます。区内の方が引越しをすることもあれば、他自治体から区内の事業所を利用することもあります。そして引き継ぎのために何回も赴くこともあります。名刺交換の数は、作業所とは比較になりません。

そのような関わりの中で、自治体間の制度に対する解釈の違いや独自のやり方に戸惑いを持つことも頻繁です。しかし、それは楽しみにもなっています。刺激や勉強になるからです。

練馬区の北町・田柄地域は東武線沿線です。板橋区や埼玉県の方と関わることも少なくありません。手続きの仕方も違えば、提出する書類も違います。それぞれに特徴があります。

▼こんなに違うんです

A市は、精神の方でも移動支援がスムーズに利用できます。このことは都内ではあまり認められていないことです。日頃から精神の方も移動支援が利用出来れば・・・と思っているのですが、都内では難しいのが現状です。「じょうして・・・障害統一と言われたのに・・・」との思いもあるのですが、これはA市では当然のように

「はい。分かりました。何時間必要なんですか？」
となります。

また視覚障害者のガイドヘルプ（同行援護）は、居室には入れないことになっています。厳格なルールに照らすと、代読代筆も居室では出来ないのです。郵便物を読んでもらうにも、近くの公園や喫茶店に行かないと出来ない方もいます。雨の日なんかは、着替えて傘をさして濡れて・・・となってしまいます。多くの方の嘆きを聞いてきました。これは国の制度があまりにも小刻みに分かれているために起きてしまう弊害とも言えます。

しかしB区では、時間の制限はあるのですが、居室に入れることになっています。居室で代読代筆がやれるんです。

また、練馬区では、精神の方の居宅支援は、月5時間が目安になっていますが、C市は違います。あくまでもその方の支援区分によって時間数が決まっています。C市が介護保険と連動させていることに関係があるように思いますが、支援区分が高いと精神の方でも月に十数時間も利用ができません。そうは言っても、C市自体にはヘルパー事業所が少ないために、練馬区のヘルパー事業所に頼らざるを得ないという側面もあります。

▼違いに対して

どうしてそのような違いがあるのでしょうか。声を上げる人がいるかないか？は大きいようですし、実際の担当部署の意識の違いもあれば、財政面での違いもあるのかも知れませんが。たった電車で数分しか離れていないのに、こんなに違いがあっているのか、同じ国なのに、どうして自治体任せにしているのか？と思うこともしばしばです。

災害が起こる度に、災害への備えが言われます。私が東日本大震災の支援で感じたのは、

- ① 支援の前提が認定になっていること。
- ② 利用料が発生すること
- ③ 小刻みに分かれている支援体系で使いづらいこと。
- ④ 自治体をまたいでの支援のしづらさです。

あの時、何よりも横のつながりが大切だと、多くの方が口にしていたのですが、実際には自治体間の横のつながりのもろさを感じています。

多くの人、多くの事業所、そして多くの自治体と関われることは、相談支援事業の面白さですが、同時に災害にもろい制度もあることも感じます。

ちやまびこ第二相談支援事業所

池田 潤

高校2年の頃、進路や将来のことで悩んでいました。近いうちに親元を離れて社会で生きていけるのか、不安がとても強かったと思います。バブル経済が崩壊した頃でした。

「24時間戦えますか」のフレーズで栄養ドリンクのCMがよくテレビで流れていました。社会にはどんな仕事があるのかもよくわからず、漠然とした感覚でしたが、何となく会社の消耗品のように働くのは嫌だと思っていました。ただ、それはあくまでも当時自身が持っていたイメージで、何も知識がないだけでした。

母親がその頃ホームヘルパーの仕事をしており、福祉の仕事は魅力的だよ、と教えてもらったことに影響を受け、身体障がい者の厚生施設で働きたいと思うようになりました。介護福祉士の資格を取るために、専門学校に通い、介護だけでなく、もう少し幅広く社会福祉のことを学ぶ機会になりました。私には弟と妹がいます。兄弟3人の学費の工面をするのに両親が苦勞をしていたのを覚えています。懸命に育ててくれた両親に感謝し、兄弟で親孝行を重ねていきたいです。

介護福祉士を取得し、特別養護老人ホームに就職しました。ある時、先輩から座薬の投与について教わる機会がありました。道具だけでなく自分で準備しようと思ひ、セットをして先輩に報告すると、怒られてしまいました。下剤を用意したつもりが、ポルタレン（解熱

剤）を用意していたのです。ガチガチに緊張して気持ちだけが先走り、完全に空回りしてしまいました。

社会人としてスタートしたものの、消耗しきつてあつけなく退職し、人生で初めての挫折を味わいました。退職後は、自宅で「ドラクエ」をしてのんびりと過ごしました。私にとつては必要な休息期間だったと思います。

ハローワーク池袋へ通い、退職からちょうど1か月後にご縁があつて、今の練馬山彦福祉会（当時は無認可）へ就職できました。いきいきと作業に取り組んだり、楽しそうに活動するメンバーさんと一緒に過ごし、支援をさせてもらうことにとてもやりがいを感じました。そして、介護の勉強から支援の基本的な姿勢を学べたので、ここで生かすことができて良かったと思ひました。

以来、山彦で26年勤めさせてもらつています。のんびりタイプなので、年の割には経験値の乏しい私ですが、より良い運営のために、地域のために、お役に立てるよう努めて参ります。

話しは変わりますが、先日、日本で初めて「こども食堂」を開設した方へのインタビュー記事を読みました。こども食堂は地域交流を促す場としても注目を集め、現在、1万か所を超えているそうです。

インタビューには、「大変な時、どうしようもなくなつた時、話しを聞いてもらえる場所があるだけで、人は頑張れる」という言葉がありました。また、現代の人間関係の希薄さに触れています。子どもたちは大人の振る

舞いを見ている。未来のためにも、今、私たち大人が手を差しのべ合う振る舞いが大事になつてきます、とありました。こども食堂という新たな取り組みをする、継続していくという意味で「（地域で）支えられてきたことに感謝、何かしてもらつたことに感謝の気持ちを伝える」等と大きなことではなく、些細なことでもできるところから始めて取り組む大切さも記されていきました。

この記事を読んだ時に、手前味噌になりますが、「山彦」がまさに実践してきたことではないかと感じました。障がいのある人たちの居場所づくりのためにプレハブから手作りで始まり、何かを始めようと仕事を請負い、そこでメンバーが働くようになった経緯。自治体から補助金が下りるようになったのは、そのあとからという歴史があります。諸先輩方が地域に支えられながら築いてきた原点であり、地道な活動です。「人間味のある」「下町っぽい温かさ」「何か懐かしい場所」という主観的な例えになりますが、言葉にすると「山彦らしさ」はそんな表現になります。

とりとめのない文章になりますが、よりよい地域社会は、物質的な面もそれなりに必要として、あとは笑顔でありさつを交わせる地域づくりではないかと思ひます。常に笑顔のあるコミュニティづくりを大切にしたいと思ひます。



やまびこのかぜ

チャレンジワークやまびこを利用しているメンバーの声

11月16日（土）、ワークショップ石神井の地域交流企画「わくわくフェスタ」を行い、事業のパネル展示を開催しました。そのなかで就労に向けたプログラムの感想やいろいろな「メンバーの声」を集めたパネルをつくりました。そこで載せきれなかったたくさんの方の声を紹介したいとおもいます。

就労したあとに役に立ちそう、よかったと思えるプログラムって？

事務系

「入所して初めて触れたパソコン」（PC操作、web検索、エクセル・ワード・パワーポイント）

「書類のスキヤン。やってたら慣れました。会社見学で本当にこの仕事があることを知りました」

名刺作成

「実際にその人に届けに行くのは緊張した」

「もう作ることが自然にできます」

資料作成

「見本を見たり、テンプレートを使うことを覚えてらびつくりしなくなった」

リミネート

「資料がきれいに貼られているのはうれしい」「病院にもあったし実はいろんなところにあるものを知った」

企業研究

「最初などところを調べればよいかわからなかったけど、ポイントがなんとなくわかって比較できるようになった」



パネル展の様子

軽作業・清掃系

「品物の管理とか発注、配送などチーム作業の部分がよかった」

「ビルの中の全体掃除は、最初はモップが重くて結構大変だった。だけど、いつの間にかスムーズにできるようになりました」

「運動不足で階段の上り下りが大変だったこともあるけど、ウォーキングの効果で無理なくできる。身体を動かす仕事ができると思えた」

体力づくり

（根強い人気があります）

「ウォーキング運動」「農園作業体験」

「室内で行う運動は運動量がとても多くて楽しみだった」「外に出て公園の自然の中を歩くことで気持ち的にも穏やかに過ごせた。無理しないで体力をつけられた」

面接対策

「自己理解シートの作成が難しかったけど、自分のことを考える時間は初めてのことで勉強になったと思う」「面接で緊張したけど褒められた点はうれしかった」「自分の話し方を振り返って仕事に活かせる」

もっとあったらいいなこんなプログラム

「コミュニケーションに関すること。苦手でも大事だと思うから」「人との距離感の取り方。入所前に言われてきたけどむずかしい」「お金について。前の仕事でも社会保険とか年

金とかよくわからなかった」

他にはこんな意見も出ていました。

「朝起きて日中活動することや、公共の乗り物で移動すること、外で活動すること、当たり前前のができなくなり不安でした。練習をすることで体力もつき、自信もつきました。その上で就労に役立つプログラムが、個々に合わせて幅広くあり、全てが大事なプログラムの内容だと思っ」

通われているみなさんの声からわかることは、どのプログラムも最初から簡単にできた！というわけではなかったということです。初めてのことだから当然ですね。じっくり気持ちを確認することでメンバーも職員も理解が深まることがあります。これからもメンバーの声を聞き、それを振り返る機会を大事にしていきたいです。

（チャレンジワーク伊東）

編集後記

昨年から各事業所で少しずつ外出企画の動きが出てきました。ついにはB型の各所でバスレクが再開へ。普段顔を合わせる同士でも作業所を出ての交流は一味違います。たくさんさんの想いがこのときに詰まっていて、楽しみで待ち遠しい気持ちはメンバーだけではないはずです。

（チャレンジワーク伊東）

編集人

社会福祉法人 練馬山彦福祉会

東京都練馬区富士見台 2-19-9
TEL(03)3998-5023

発行人

障害者定期刊行物協会
東京都世田谷区祖師谷 3-1-17
ヴェルドウーラ102号室

頒価 20円